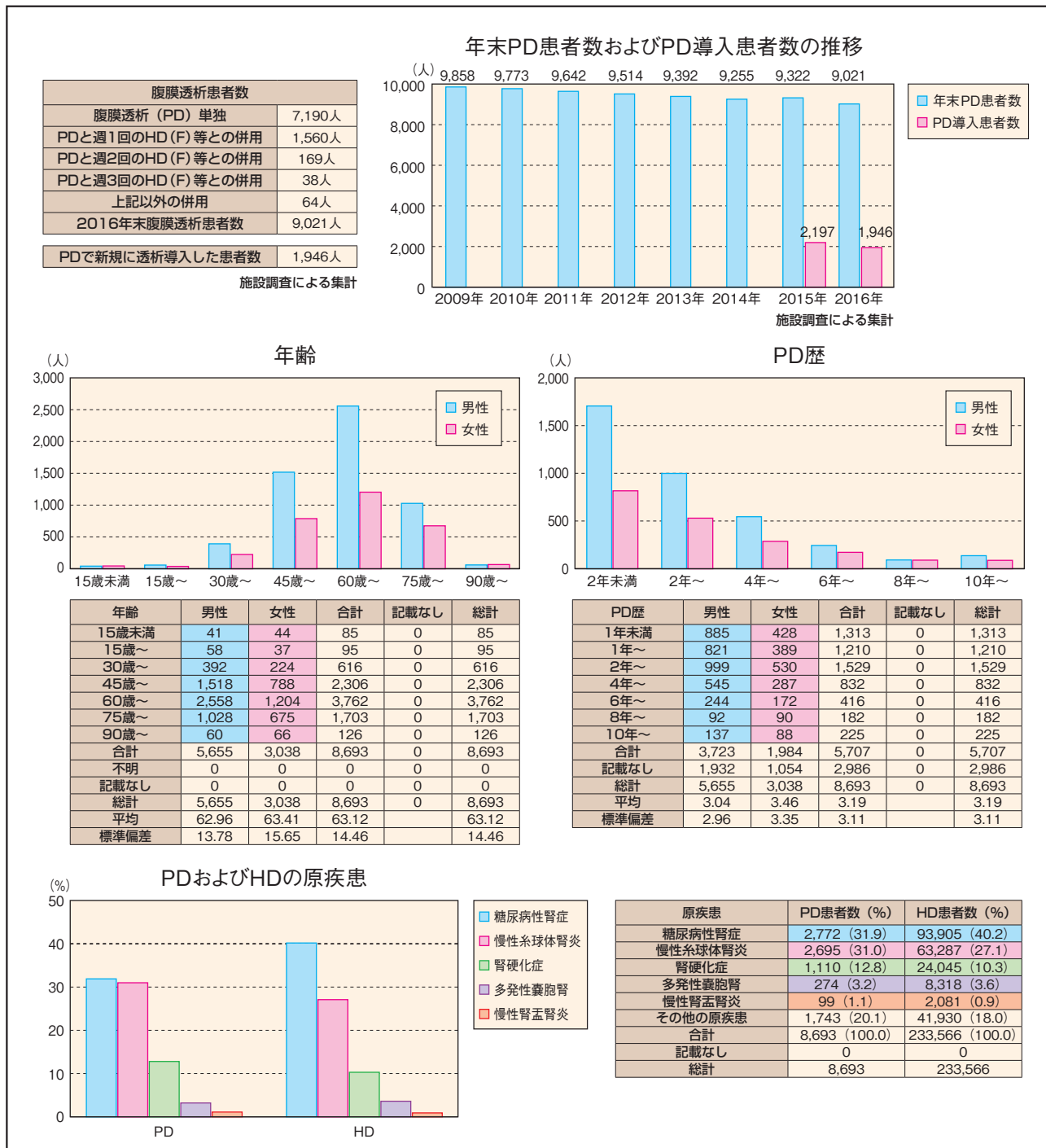


5) 腹膜透析

(1) 腹膜透析 (PD) の現況 (図表29)



集計対象：腹膜透析患者（併用患者含む）

解説

施設調査票の集計では、2016年のPD患者は9,021人で、その内訳はPD単独が7,190人、HD (F) の週1回の併用が1,560人、2回が169人、3回が38人、それ以外の併用が64人であった。PD患者総数の年次推移をみると、2009年以降徐々に低下傾向を示しているが、本調査では主に血液透析を施行している施設を対象にしていることから、それ以外の施設で施行されているPD患者は含まれていない可能性があり、注意が必要である。また、2015年よりPDで新規導入した患者数の調査を開始し、2016年は1,946人で2015年の2,197人より減少した。

患者調査票で回答のあったPD患者 (HD (F) との併用含む) 8,693人のうち、男性は5,655人 (65.1%)、女性は3,038人 (34.9%) で、年齢平均は、男性が63.0歳、女性が63.4歳であった。年齢分布をみると、60～74歳の年齢層をピークとした正規分布を示し、これらの傾向はHD患者と同等であった。現在施行中のPD歴分布をみると、2年未満は全体の44.2%を占め、8年以上は7.1%であった。原疾患としての糖尿病性腎症はPD患者の31.9%を占め、慢性糸球体腎炎の31.0%とほぼ同等であった。HD患者と比較すると、糖尿病性腎症の比率が低い傾向を示した。